

工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
KANAKEI

青工研が総会開催 本庄新体制が始動

統一テーマ・未来を拓け！
「1年間走り続ける」

工業部会の下部組織、相模原市青年工業経営研究会（青工研）は4月14日、市立産業会館で「第43回通常総会」を開催した。総会では、2022年度の事業報告・収支決算書のほか、23年度の事業計画書・収支予算書などについて審議。すべて原案どおり承認された。これにより、先に行われた次年度役員選任総会で選出された本庄浩義会長（ミナシアホールディングス会長）による新体制がスタートした。



挨拶する本庄新会長

総会の中で本庄会長は23年度の統一テーマとして「未来を拓け！」、スローガンに「実践価値で存在価値を高めろ」を掲げた。本庄会長は「この相模原市で、当会が地域経済の活力向上の一翼を担っていると考えている。だからこそ、きれいごとだけではなく、泥臭く、そしてまっとうに儲（もう）



OBなど関係者も多数参加

けて事業を成長させるための礎を強固にしなければならぬ。礎とは何か？ 企業は人なりという言葉がある通り「人」だと思ふ。われわれ経営者が、真剣に自社の成長発展を考え、実践を繰り返すことで礎はより強固になり、周りに伝播するのだと確信しており「まっとう」と話した。

その上で「当会は、本気・本音で語り合う経営者の団体で、その姿勢を育てる環境としては最良。同じ志を持った仲間を探したい」といった企業に対し、業務の見える化からスタート。改善点などを見つけ最終的には専門家が何らかの提案をしていく。

DX推進事業 専門家が伴走支援 最適なツールを「提案」

相模原商工会議所は、中小企業向けにDX（デジタルトランスフォーメーション）化の支援に乗り出す。2022年度から同会議所独自に実施していた「DX推進支援事業」を23年度も継続する。同事業は、専門家が市内企業を個別訪問し、DX化に向けた継続的な伴走支援を行っていく。と専門家が訪問。計5回（1回2時間）にわたり支援していく。具体的には「何から着手してよいか分からない」「自社に合うツール

かながわモデル工場

大島機工が追加 ロボット技術など習得

指定期間は、2023年4月1日からの5年間。今回分を追加すると「かながわ中小企業モデル工場」は計133工場となった。大島機工は油圧シリンダー部品を主体に生産。切削加工技術力の高さと徹底した原価管理体制を高く評価されるほか、ロボット技術の習得などにも努めている。

再構築補助金 第10回公募中 「成長枠」など新設



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中

近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会